

公立病院の統合検討状況

多久市立病院・小城市民病院を統合し、
東多久町での新たな整備に向けて

令和元年10月25日 市政報告会





医療確保と統合が必要な背景

◇ 両市の公立病院の概要

	多久市立病院	小城市民病院
開設時期	昭和13年2月	昭和26年1月
現病院竣工	昭和52年	昭和58年
許可病床数	105床 〔一般病床60床、療養病床45床〕	99床 〔一般病床99床〕
診療科	内科、外科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ科、リハビリテーション科、肝臓内科、腎臓内科、腎臓内科（人工透析）、糖尿病内科、神経内科、肛門外科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科（計16科目）	内科、外科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、リハビリテーション科、産婦人科、脳神経外科、小児科、泌尿器科（計11科目）
医師数	常勤9名、非常勤1.0名	常勤9名、非常勤2.6名
平均患者数	入院64人、外来180.3人/日	入院63.7人、外来200人/日
救急受入数	236件/年	253件/年

両病院とも築30年以上経過

資料：平成28年病床機能報告（許可病床・稼働病床）、さがネット（医師数は平成30年6月1日現在。平均患者数は平成29年度）、病院提供データ（救急搬送受入件数）



2015年 (平成27年) 3月

総務省 「新公立病院改革ガイドライン」策定

「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の視点に立って改革を進ることが必要とし、地方公共団体は新公立病院改革プランを策定し、病院機能見直しや病院事業経営改革に総合的に取り組むことを要請。

更なる公立病院改革の必要性(新公立病院改革ガイドライン抜粋)

公立病院は、地域における基幹的な医療機関として、地域医療のため重要な役割を果たしているが、(中略)医師不足等の厳しい環境が続いており、持続可能な経営を確保しきれていない病院も多い。

また、人口減少や少子高齢化が急速に進展する中で、医療需要が大きく変化することが見込まれており、地域ごとに適切な医療提供体制の再構築に取り組んでいくことがますます必要になっている。



2016年(平成28年)8月

多久市と小城市で、「多久・小城地区自治体病院再編・ネットワーク研究会」設置して検討(全5回)

佐賀県地域医療構想を踏まえた新公立病院改革プランを策定するため、医療関係者、県、両市長、両病院代表者の委員11名で構成。

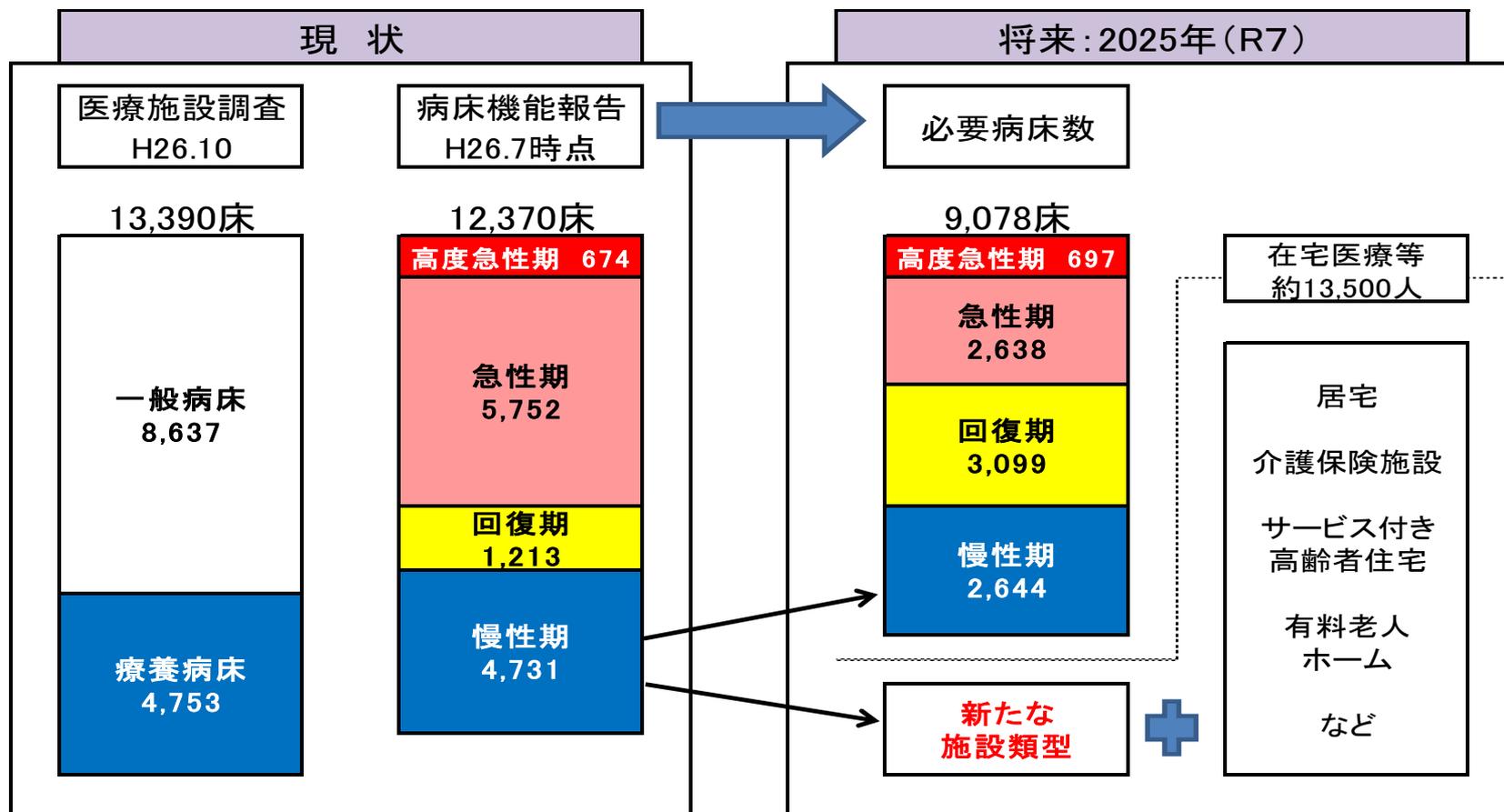
研究会では、人口動態や医療提供体制等を踏まえた視点から、「地域完結型の医療」、「他の医療機関との役割分担」、「地域包括ケア」等、今後の公立病院に求められる機能等の検討が行われた。

地域医療構想

団塊の世代が全員後期高齢者となる2025年を念頭に、病床の機能区分(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)ごとに医療需要と必要病床数を推計し、将来の医療提供体制の構築に向けた施策の方向性を示すものです。



佐賀県地域医療構想では、2025年の必要病床数や急性期から回復期への病床機能の転換等が示されています。



病床機能報告は、未報告医療機関があるため、現状の病床数とは一致しない



2017年 (平成29年) 1月 「多久・小城地区自治体病院 再編・ネットワーク研究会」 報告書提出

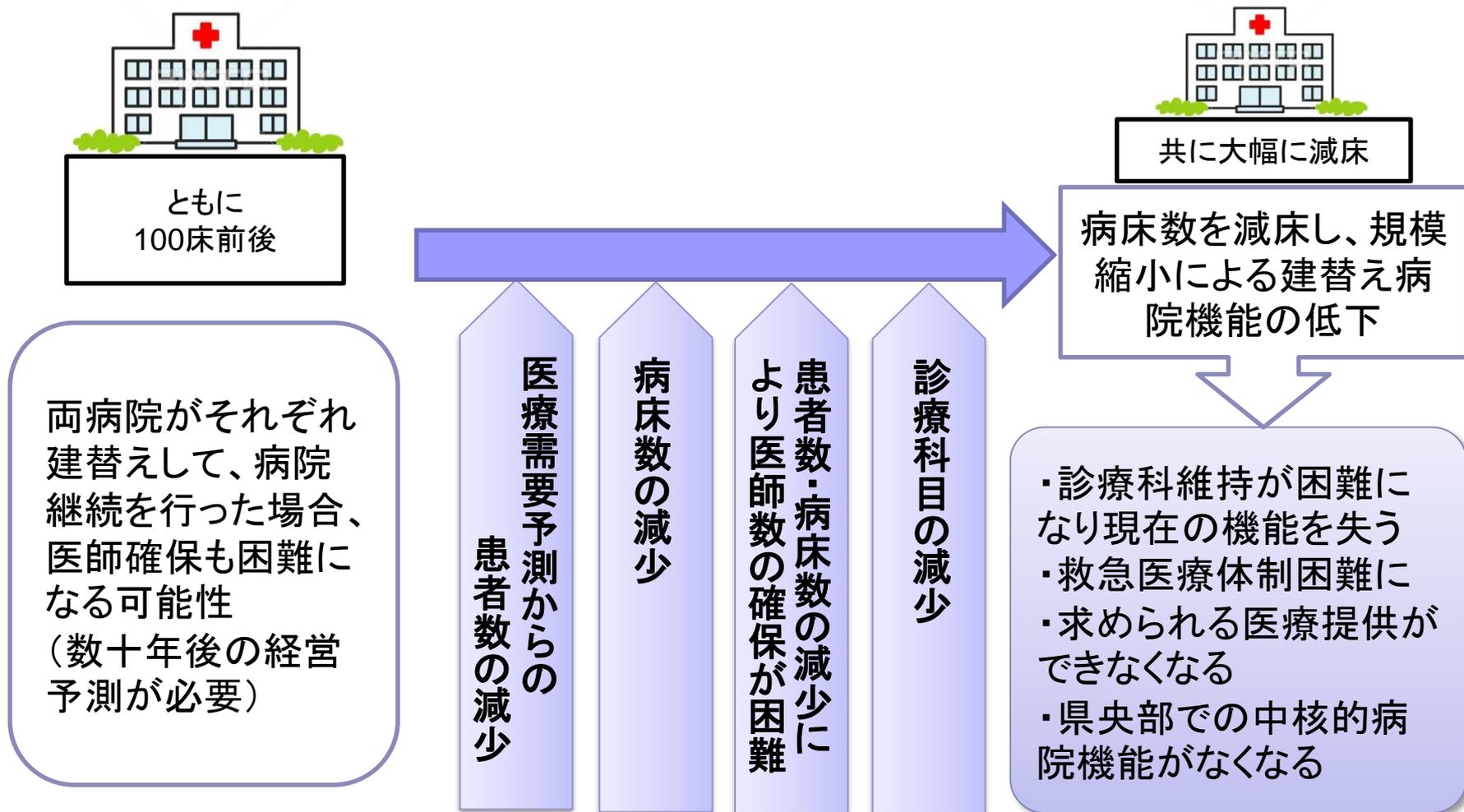
報告書では、「今後求められる機能を発揮する公立病院をつくるという観点から、多久市立病院と小城市民病院は、ともに築後30年を超え老朽化しており、ともに建て替え時期を迎えているこの機を逃すことなく、両病院を統合し新たな病院を設立することが最も望ましい選択肢である」という内容を明記

2017年 (平成29年) 3月 「多久市立病院改革プラン」策定 「小城市民病院改革プラン」策定

両病院を統合し、新病院設置を目指し、協議を進める方針を明記



医療確保と統合が必要な背景





医療資源の集約

集約による患者数及び医師の確保

医師の確保による診療科の維持・拡充

多久市立病院

105床

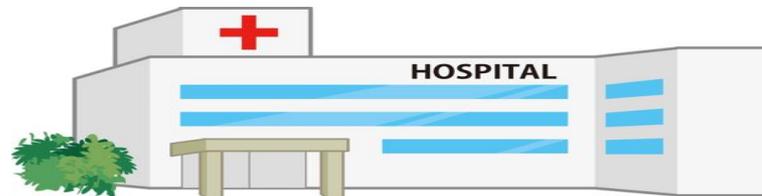


小城市民病院

99床



統合し今後求められる機能を発揮する新公立病院建設



150床
再編ネットワーク研究会



候補地検討とその選定について

2017年 (平成29年) 10月 両市長が統合検討の着手を合意

統合の決定にあたり、新病院の建設場所が重要な課題となるため、建設場所(候補地)の選定作業を最初に行うこと等を確認。

2018年 (平成30年) 8月 建設候補地の評価をコンサルタントへ委託

両市合同で建設候補地5か所(多久市内3か所、小城市内2か所)を選定し、客観的な評価を委託。



候補地検討とその選定について

両市の建設候補地





2019年(令和元年)7月 「多久・小城地区 新公立病院建設候補地検討 委員会」設置(全3回)

両病院の統合を目指し、新公立病院の建設候補地の選定を行うことを目的として、医療関係者、両市長、両病院代表者の委員10名で構成。

2019年(令和元年)8月 「多久・小城地区 新公立病院建設候補地検討 委員会」報告書提出

「両市民の利便性」、「医療の地域バランス」、「中長期的に安定した医療提供体制」、「経営の安定性」の要件を総合的に考慮し、【多久市東多久町羽佐間】を適地とする旨の報告。



2019年(令和元年)9月

「新たな公立病院設立に関する覚書」締結

多久市立病院と小城市民病院を統合し、新病院を東多久町に設立することや費用負担割合等の基本的な条件について合意。

- 1 多久市立病院と小城市民病院を統合し、新病院を設立する。
- 2 新病院の設立場所は、多久市東多久町大字別府とする。
- 3 建設に要する費用は、多久市が9/10、小城市が1/10負担する。
- 4 運営経費は、総務省が通知する地方公営企業繰出基準内とし、その割合は負担する毎年度の前々年度において新病院を受診した市民の割合によって定めるものとする。なお、実績が不明となる開設後2か年度においては甲乙折半とする。
- 5 安定した運営に必要と思われる現金預金残高を甲乙が協議して定め、決算時にこの残高を下回った場合には多久市においてこれを補填し、最低30年間は公立病院として存続させるものとする。
- 6 本覚書に定めのない事項については、甲乙誠意をもって協議し、処理する。

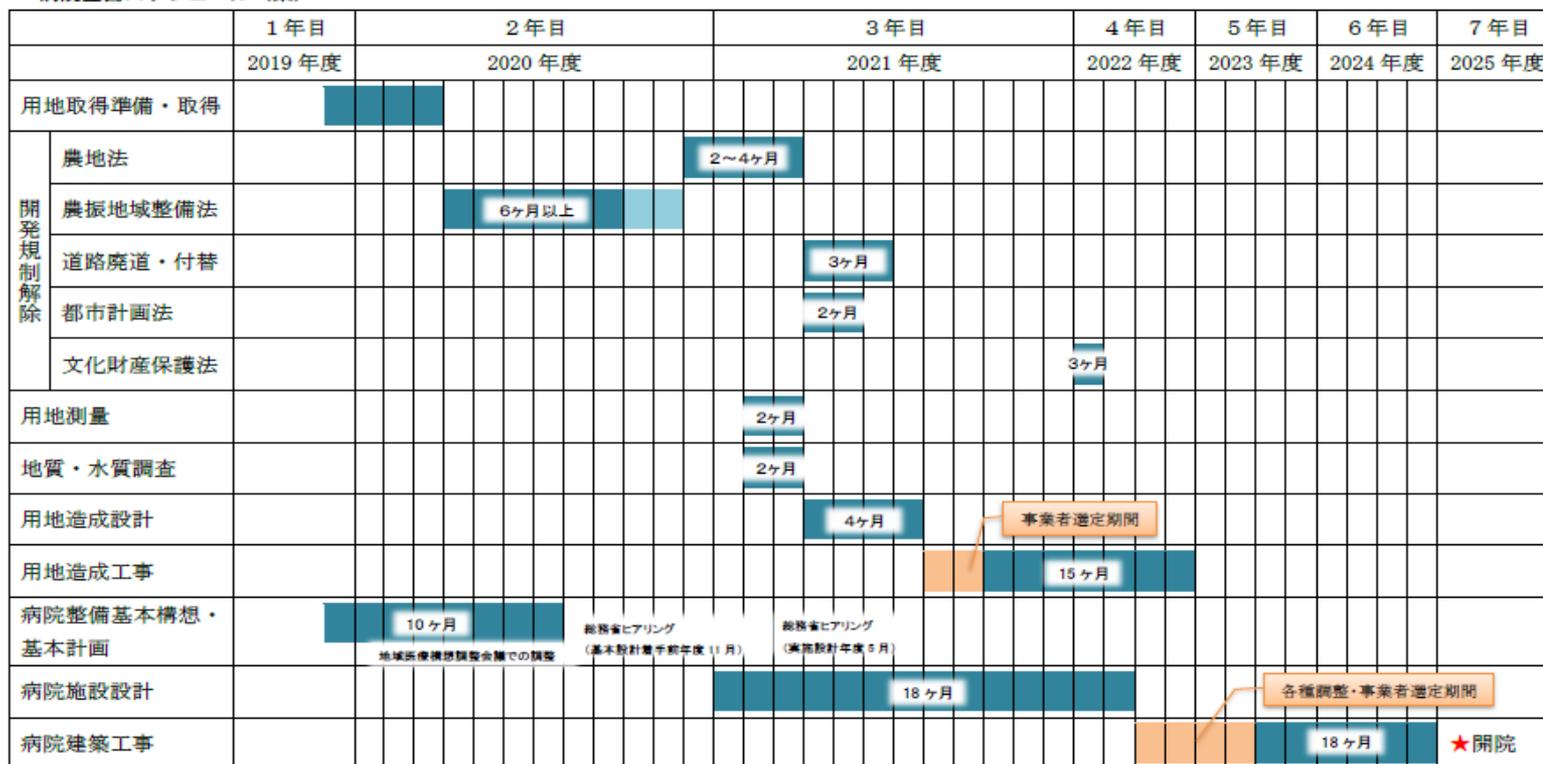


今後の予定

2020年(令和2年)～
2021年(令和3年)～
2025年(令和7年)

基本構想・基本計画策定
設計、造成工事、建設工事
開院

病院整備スケジュール(案)



※遺跡の有無は不詳だが、不測の事態を想定して造成に3か月間の余裕を見る。



ご清聴ありがとうございました。